

医工連携推進協議会通信

令和4年春季号（令和4年3月発行）

事務局：米子市東町 161-2
米子市役所第2庁舎1階
TEL/Email：(0859)57-5226
keniki-ikou@sea.chukai.ne.jp

令和3年度「中海・宍道湖・大山圏域市長会第3回総会」 「中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会第2回総会」が開催されました。

本協議会の事業委託元である「中海・宍道湖・大山圏域市長会」、主要構成団体である「中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会」の令和3年度総会が、それぞれ令和4年3月12日（土）午後3時から、米子市の国際ファミリープラザで開催されました。

本協議会からは、「中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会総会」に大江事務局長が出席し、本協議会の令和3年度事業報告・令和4年度事業計画（事務局素案）の説明を行いました。（説明資料は裏面参照）

なお、両総会において役員改選が行われ、市長会会長には伊木隆司米子市長が、ブロック経済協議会会長には坂口平兵衛米子商工会議所会頭が就任されました。（任期は、どちらも令和4年4月1日～令和6年3月31日）

両総会終了後には、合同勉強会として「クラブツーリズム株式会社地域共創事業部長・樋山智彦氏」による講演『地域発展の源は「旅行」にあり～持続可能な地域発展に必要なこと～』が開催されました。



マスクサポート “福祉の店おおぞら”で販売開始！ ～新たな「医工福連携」の構築に向けて！～

本協議会が商品開発・改造に関与した「マスクサポート」（不織布マスク用装着補助具）について、開発者の株式会社ケイケイ、米子市役所内で福祉の店“おおぞら”を運営している NPO 法人地域活動支援センター「おおぞら」、及び本協議会の3者で販売委託（支援）契約を締結し、令和4年2月から“福祉の店おおぞら”で販売を開始しました。

これまで事業活動を進めてきた中で、「いくら開発できても売れなければ意味がない→如何にして医工連携をビジネスとして成立させていくか」という点が大きな課題として浮き彫りとなっていました。そこで、「ビジネス化」をめざし、本協議会が関与した初の個人向け商品である「マスクサポート」の販売支援に取り組むこととしました。

また併せて、現在の社会状況の下で、高リスクの方に対する感染対策を徹底しなければならない福祉・介護の現場においても、医療機関と同様なニーズが生じていることにも着目し、医工連携に福祉分野も含めた、新たな「**医工福連携**」の構築も一つの目標とし、下記の点について「おおぞら」等と協調的な活動を開始しました。

- ① “福祉の店おおぞら”でのマスクサポートの販売
- ② 「おおぞら」・「米子市ふれあいの里」にマスクサポート各 50 個を寄贈（使用者アンケートを依頼）
- ③ 福祉現場のニーズ・障がい者や高齢者の意見聴取、商品開発・改良への反映
- ④ 福祉施設・介護施設等の賛助会員への加入拡大

「マスクサポート」に関しては、本協議会の支援活動としてマッチングを実施し、上記“福祉の店おおぞら”のほか、松江市立病院内のローソン、米子医療センター前の西部薬局、南部町西伯病院の売店等でも販売が始まっています。また、米子市の社会福祉法人こうほうえん・社会福祉法人博愛会にも、同様の寄贈・使用者アンケート依頼を行い、新たな連携を始めました。

本協議会では、このような「ビジネス化の支援」や「医工福連携の推進」の取組みを、今後、圏域全体で拡大していきます。

構成団体、賛助会員企業の皆様におかれましては、ご意見・ご提案、マッチング希望や医工福連携に関する情報等がありましたら、ぜひとも事務局までお知らせください。



中海・宍道湖・大山圏域 産学・医工連携推進協議会

令和3年度事業報告・令和4年度事業計画（令和4年度総会に提出予定の事務局素案）

1 令和3年度の実施事業について

新型コロナウイルスの感染状況が改善しない中、医療機関からのニーズ聴取や賛助会員企業への訪問活動が非常に困難であった。そのため、下記のような活動を重点的に行った。

- ① 賛助会員相互の情報交換の活性化のため、HPに「賛助会員の広場」を新設
- ② 協議会の知名度アップ、情報発信等のため、「医工連携推進協議会通信」を創刊
- ③ 既開発商品の広報宣伝・販売促進（Pkensa・エマークイックプロ・マスクサポート）
- ④ コロナワクチン注射関連等のニーズ調査（松江市立病院・ふれあいの里など）
- ⑤ 新たな医工「福」連携の可能性の模索（ニーズ・製造販売協力）

※現在の賛助会員企業数 82 社（令和3年度に4社加入）

2 令和4年度実施事業の方向性

基本線としては、これまでの実施事業（下記①～⑥・令和3年度事業計画指針）の継承をメインに据えていくが、依然として先行き不透明の社会状況を注視しながら、臨機に、できる限り効果的な活動・対応を図っていききたい。加えて、既存人脈の最大限活用と後継者養成も重要課題として取り組んでいく。

- ① 現在進行中の案件の具現化
- ② 医療機関から得たニーズの再検討
- ③ 大学とのマッチング協力の推進
- ④ 圏域外の部材供給先の探索と商談作り
- ⑤ これまでの実績検証と来年度以降の方向性の検討
- ⑥ その他必要な業務の実施

3 新たな基軸の構成

(1) 企業的には、いくら開発に至っても、ビジネスとして成立しなければ意味がない！

- ① 開発商品の広報宣伝を進め、販売促進に繋がる道を模索 ⇒ 一つでも成功事例を作りたい。
- ② HPの充実（賛助会員の事業・商品PRも可）
⇒ 新設した「賛助会員の広場」の充実拡大（重要な営業活動と位置付けて推進）

- ③ 各市役所内での周知（医工連携事業自体・開発商品の情報）

※米子市では令和3年12月から庁内LAN掲示板に「医工連携推進協議会通信」を掲載し、一般職員や幹部に情報提供を始めました。他市においても、同様の周知活動をお願いしたい。

(2) 圏域のものづくりに関し、県境を越えて各市施策の横軸の役割を担う！

各市のものづくりに関する事業（松江ものづくりネット、出雲・米子の医学部との連携など）との連携を強化し、県境を越えて各市施策が充実するよう、圏域企業相互連携のコーディネーター等、横軸的な役割を担う。

(3) 医・工のみならず、福祉・介護との連携を新たなターゲットに！

今後ますます需要が増える福祉・介護施設からのニーズを得て、開発等に活かすことも重要である。また、Pkensaの梱包・組立てや、マスクサポートの販売促進に障がい者支援施設が参加しているように、新たな方面での連携拡大についても取り組む。

(4) 医療・福祉・介護施設にとって、必要な機器の相談窓口的な機能を持つ！

医療機関からのニーズを再検討したところ、現場が求めているもののうちの多くは、新規製品開発を検討するまでもなく、従前から既製品として存在し、それを現場が知らないだけ、という実態が判明した。そのような情報を現場に提供する機能を有する、いわゆる「医療・福祉・介護医療等機器情報お助け隊（仮称）」的な相談窓口を設け、何でも気軽に相談を受けることで、関係機関との緊密な関係を構築していく。また、相談内容に応じて、関連する業種の賛助会員にサポートを依頼する。

【事務局からのお知らせ・お願い】

〈担当〉事務局：大江淳史・山根修 アドバイザー：眞野博光
TEL：(0859)57-5226 Email：keniki-ikou@sea.chukai.ne.jp

賛助会員企業の皆様へ：

- ・紹介ページの内容に変更等がありましたら、メールで変更内容をお知らせください。
- ・まだ紹介ページを作成されていない賛助会員は、随時申込みを受け付けています。
- ・製品、技術紹介ページも引き続き募集していますので、情報提供をお願いします。

構成団体の皆様へ：

- ・本協議会の活動推進のため、医療機関、福祉施設、介護施設等からのニーズを常時収集しています。紹介いただける施設等がありましたら、ぜひお知らせください。
- ・中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会会長の改選に伴い、本協議会会長についても、令和4年4月1日から坂口平兵衛米子商工会議所会頭が就任されます。
- ・本協議会の令和4年度通常総会の日程、開催形式等については、感染状況等を勘案しながら早急に決定し、別途お知らせします。

情報募集中！

HP・QR

